

全国月間火山概況（平成 27 年 11 月）

口永良部島の新岳では、6月19日の噴火以降、噴火は観測されていません。火山性地震は少ない状態で経過しました。火山性微動は観測されていません。火山ガス（二酸化硫黄）の放出量はやや少ない状況でした。

地殻変動観測では、5月29日の噴火以降に特段の変化は認められません。

5月29日と同程度の噴火が発生する可能性は低くなっているものの、引き続き噴火の可能性があり、火砕流に警戒が必要です。火砕流の流下による影響が及ぶと予想される屋久島町口永良部島の居住地域（前田地区、向江浜地区）では厳重な警戒（避難等の対応）をしてください。

噴火に伴う大きな噴石の飛散が予想される新岳火口から概ね2kmの範囲、及び火砕流の流下による影響が及ぶと予想される新岳火口の西側の概ね2.5kmの範囲では、厳重な警戒（避難等の対応）をしてください。風下側では、火山灰だけでなく小さな噴石が風に流されて降るため注意してください。新岳火口から半径1.4海里以内の周辺海域では、噴火による影響が及ぶおそれがありますので、噴火に警戒してください。

西之島では、海上保安庁等の観測によると、噴火による噴石等の堆積や溶岩の流出が継続しています。

西之島では、今後も新たに形成された陸地にある火口で噴火活動が継続すると考えられます。また、西之島周辺の海底で噴火が発生する可能性も引き続き考えられ、噴火による影響が海上まで及んだ場合、弾道を描いて飛散する大きな噴石や、水面を高速で広がるベースサージ等の影響が概ね2kmの範囲に及ぶおそれがありますので、西之島の中心から概ね4km以内では噴火に警戒してください。

吾妻山では、大穴火口からの噴気活動はやや活発な状態が続いています。

遠望カメラによる観測では、大穴火口（一切経山南側山腹）の噴気の高さは100m以下で経過しました。また、2015年1月以降確認している大穴火口外の噴気が引き続きみられています。

13日に実施した現地調査では、前回（10月14日から15日）の調査で新たに観測した一切経山西側登山道沿いの弱い噴気が引き続き認められました。

大穴火口付近では小規模な噴火が発生する可能性がありますので、大穴火口周辺（火口から概ね500mの範囲）では弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。

草津白根山では、湯釜火口内北東部や北壁及び水釜火口の北から北東側にあたる斜面で熱活動の活発な状態が継続しています。東京工業大学によると北側噴気地帯のガス組成及び湯釜湖水の化学成分にも火山活動の活発化を示す変化が継続しています。

湯釜火口から概ね1kmの範囲では、小規模な噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。

浅間山では、6月19日の噴火以降、噴火は観測されていません。

山頂直下のごく浅い所を震源とする体に感じない火山性地震は多い状態が続いています。また、火山ガス（二酸化硫黄）の放出量も多い状態で経過しており、引き続き火山活動はやや活発な状態で経過しています。

今後も火口周辺に影響を及ぼす小規模な噴火が発生する可能性がありますので、山頂火口から概ね2kmの範囲では、弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。

御嶽山では、地震活動は低下した状態で経過していますが、昨年（2014年）8月以前の状況には戻っていません。御嶽山の火山活動は低下した状態が続き、昨年10月以降噴火が発生していないことから、昨年9月27日と同程度の噴火の可能性は低下していると考えられます。一方、火口列からの噴煙活動や地震活動が続いていることから、昨年9月27日より規模の小さな噴火が今後も突発的に発生する可能性は否定できません。

火口から概ね1kmの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。

阿蘇山の中岳第一火口では、10月23日に噴火が発生して以降、噴火は発生していません。

火山活動の活発時にみられていた火山性微動の振幅の増大は10月23日以降、概ね小さな状態となりました。また、火山ガス（二酸化硫黄）の放出量が多い状態が続いていましたが、10月下旬以降は減少しています。これらのことから、火口から1kmを超える範囲に影響を及ぼす噴火が発生する可能性は低くなったと判断し、24日14時00分に火口周辺警報を発表し、噴火警戒レベルを3（入山規制）から2（火口周辺規制）に引き下げました。

中岳第一火口では、2014年11月以降、活発な火山活動が続いてきたことから、当分の間は火口周辺に影響を及ぼす噴火が発生する可能性があります。

火口から概ね1kmの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石及び火砕流に警戒してください。風下側では降灰及び風の影響を受ける小さな噴石に注意してください。

霧島山（新燃岳）付近を震源とする火山性地震が時々発生しました。

GNSS¹⁾観測によると、新燃岳の北西数kmの地下深くにあると考えられるマグマだまりの膨張を示す地殻変動は、2015年1月頃から停滞しています。一方、新燃岳周辺の一部の基線では、わずかに伸びの傾向がみられていましたが、10月頃から停滞しています。

火口から概ね1kmの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。

桜島の昭和火口では、9月17日以降爆発的噴火は発生しておらず、9月29日以降は、南岳山頂火口を含めて小規模な噴火も観測していません。火山性地震及び火山性微動は少ない状態で経過し、山体の膨張を示す地殻変動はみられていません。また、火山ガス（二酸化硫黄）の放出量も少なくなっています。これらのことから、昭和火口及び南岳山頂火口から概ね1kmを超える範囲に影響を及ぼす噴火が発生する可能性が低くなったと考えられるため、25日11時00分に火口周辺警報を発表し、噴火警戒レベルを3（入山規制）から2（火口周辺規制）に引き下げました。

火山活動は低下していますが、これまでも噴火を繰り返しており、今後も火口周辺に影響を及ぼす噴火が発生すると考えられます。昭和火口及び南岳山頂火口から概ね1kmの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。

諏訪之瀬島の御岳火口では、1日と20日に噴火が発生しました。

今後も火口周辺に影響を及ぼす程度の噴火が発生すると予想されますので、火口から概ね1kmの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。

雌阿寒岳では、ポンマチネシリ火口付近の浅いところを震源とする体には感じない微小な火山性地震は少ない状態で経過しています。また、2日から5日にかけて実施した現地調査では、10月1日の調査と比較して地熱域のさらなる拡大等は観測されず、過去の活動と比較して熱活動の高まりは小規模なものに留まっており、ポンマチネシリ火口から約500mの範囲に影響を及ぼす噴火が発生する可能性は低くなったものと考えられます。

これらのことから、13日14時00分に噴火予報を発表し、噴火警戒レベルを2（火口周辺規制）から1（活火山であることに留意）に引き下げました。

なお、ポンマチネシリ96-1火口近傍の地下における熱活動の活発化の可能性を示す全磁力の変化は継続していますので、今後の火山活動の推移に注意してください。

蔵王山では、火山性微動が3回発生しました。そのうち、30日に発生した火山性微動は継続時間のやや長いものでした。

12月2日に山形県警察の協力により実施した上空からの観測では、御釜とその周辺に噴気及び地熱域はみられませんでした。

火山性地震は少ない状態で経過しました。

2013年以降、火山性地震の増加や火山性微動の発生が観測されており、2014年10月以降はわずかな膨張を示す地殻変動が観測されるなど、長期的にみると火山活動はやや高まった状態にありますので、今後の火山活動の推移に注意してください。

箱根山では、大涌谷で7月1日にごく小規模な噴火が発生した以降、噴火は観測されていません。

地震活動は低下傾向が続いており、ほぼ4月の活動活発化以前の状態となっています。国土地理院のGNSS¹⁾連続観測でみられていた山体の膨張を示す地殻変動も、8月下旬頃から停滞し、その後特段の変化はみられていません。また、気象庁と神奈川県温泉地学研究所が設置している傾斜計や体積ひずみ計では、8月以降火山活動に関連する変動はみられていません。

以上のことから、大涌谷周辺の想定火口域において噴火の可能性は低くなったと判断し、20日14時00分に噴火予報を発表し、噴火警戒レベルを2（火口周辺規制）から1（活火山であることに留意）に引き下げました。

一方、大涌谷周辺の想定火口域では、緩やかな低下傾向はみられるものの、噴気活動が活発なところがあります。大涌谷周辺の想定火口域では、噴気や火山ガスに引き続き注意してください。

表1 12月8日現在の火山現象に関する警報及び予報の発表状況

特別警報・警報・予報	噴火警戒レベル及びキーワード	該当火山
噴火警報	レベル5（避難）	口永良部島
火口周辺警報	入山危険	西之島
	レベル2（火口周辺規制）	吾妻山、草津白根山、浅間山、御嶽山、阿蘇山、霧島山（新燃岳）、桜島、諏訪之瀬島
	火口周辺危険	硫黄島
噴火警報（周辺海域）	周辺海域警戒	福徳岡ノ場
噴火予報	レベル1（活火山であることに留意）	雌阿寒岳、十勝岳、樽前山、倶多楽、有珠山、北海道駒ヶ岳、秋田焼山、岩手山、秋田駒ヶ岳、安達太良山、磐梯山、那須岳、新潟焼山、焼岳、白山、箱根山、富士山、伊豆東部火山群、伊豆大島、三宅島、九重山、雲仙岳、霧島山（御鉢）、薩摩硫黄島
	活火山であることに留意	知床硫黄山、羅臼岳、天頂山、摩周、アトサヌプリ、雄阿寒岳、丸山、大雪山、利尻山、恵庭岳、羊蹄山、ニセコ、恵山、渡島大島、恐山、岩木山、八甲田山、十和田、八幡平、鳥海山、栗駒山、鳴子、肘折、蔵王山、沼沢、燧ヶ岳、高原山、日光白根山、赤城山、榛名山、横岳、妙高山、弥陀ヶ原、アカンダナ山、乗鞍岳、利島、新島、神津島、御蔵島、八丈島、青ヶ島、ペコネース列岩、須美寿島、伊豆島島、嬬婦岩、海形海山、海徳海山、噴火浅根、北福徳堆、南日吉海山、日光海山、三瓶山、阿武火山群、鶴見岳・伽藍岳、由布岳、福江火山群、霧島山（新燃岳、御鉢以外）、米丸・住吉池、若尊、池田・山川、開聞岳、口之島、中之島、硫黄島島、西表島北北東海底火山、茂世路岳、散布山、指臼岳、小田萌山、折捉焼山、折捉阿登佐岳、ベルタルベ山、ルルイ岳、爺爺岳、羅臼山、泊山

印を付した火山は火山現象に関する海上警報も発表中。



図1 火山現象に関する警報を公表中の火山

【各火山の活動状況及び警報・予報事項】

全国の主な火山の活動状況及び予報警報事項は以下のとおりです。その他の火山については、火山活動に特段の変化はなく、警報・予報事項に変更はありません。

雌阿寒岳〔噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）〕 13日に噴火警戒レベル2（火口周辺規制）から引下げ

11月2日から5日にかけて実施した現地調査では、10月1日の現地調査と比較して、ポンマチネシリ第3・第4火口の地熱域にさらなる拡大等は認められず、その他の火口の状況についても特段の変化はみられませんでした。ポンマチネシリ第3・第4火口の地熱域の広がり、今回の活動と同様に噴煙の増加及び全磁力の減少が観測された2013年と同程度であり、2008年噴火前と比較して小規模なものに留まっています。

ポンマチネシリ火口付近の浅いところを震源とする体には感じない微小な火山性地震は、4月中旬以降増減を繰り返しながら多い状態となっていました。8月以降徐々に減少し、8月下旬以降は1日あたり概ね10回以下と少ない状態で経過しています。火山性微動は観測されませんでした。

以上のように、雌阿寒岳ではポンマチネシリ火口から約500mの範囲に影響を及ぼす噴火が発生する可能性は低くなったものと考えられることから、13日14時00分に噴火予報を発表し、噴火警戒レベルを2（火口周辺規制）から1（活火山であることに留意）に引き下げました。

なお、ポンマチネシリ96-1火口近傍の地下における熱活動の活発化の可能性を示す全磁力の変化は継続していますので、今後の火山活動の推移に注意してください。

蔵王山〔噴火予報（活火山であることに留意）〕

18日と27日に規模の小さい火山性微動が発生しました。30日に発生した火山性微動は継続時間がやや長く、微動発生に先行してわずかな南東（山頂の南側）上がりの変化がみられました。この傾斜変化は微動終了後、元に戻っています。微動発生前後に火山性地震は観測されておらず、他のデータにも特段の異常は認められません。

12月2日に山形県警察の協力により実施した上空からの観測では、御釜とその周辺に噴気及び地熱域はみられませんでした。また、丸山沢噴気地熱地帯をはじめ想定火口域（馬の背カルデラ）内に異常は認められませんでした。

2013年以降、火山性地震の増加や火山性微動の発生が観測されており、2014年10月以降はわずかな膨張を示す地殻変動が観測されるなど、長期的にみると火山活動はやや高まった状態にありますので、今後の火山活動の推移に注意してください。

吾妻山〔火口周辺警報（噴火警戒レベル2、火口周辺規制）〕

大穴火口の噴気活動はやや活発な状態が続いています。

遠望カメラによる観測では、大穴火口（一切経山南側山腹）の噴気の高さは100m以下で経過しました。また、2015年1月以降確認している大穴火口外の噴気が引き続きみられています。

13日に実施した現地調査では、前回（2015年10月14日から15日）の調査で新たに観測した一切経山西側登山道沿いの弱い噴気が引き続き認められました。噴気孔の周辺には硫黄の昇華物を確認しました。

大穴火口付近直下を震源とする火山性地震は、1回（前月7回）と少ない状態で経過しました。火山性微動は観測されませんでした。

浄土平の傾斜計では、2014年4月以降、緩やかな西側（火口方向側）上がりの変動が継続していましたが、2015年7月頃から停滞していましたが、9月後半から西側下がり傾向となっています。

GNSS¹⁾連続観測では、2014年9月頃から一切経山付近の膨張を示す緩やかな変化がみられていましたが、2015年6月頃から停滞しています。国土地理院の広域的な地殻変動観測結果では、2014年12月頃から一部の基線で山体の膨張を示す地殻変動が見られていましたが、2015年7月頃から停滞しています。

大穴火口から概ね500mの範囲では小規模な噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。地元自治体等の指示に従って危険な地域には立ち入らないでください。また、大穴火口の風下側では降灰及び風の影響を受ける小さな噴石、火山ガスに注意してください。

草津白根山[火口周辺警報(噴火警戒レベル2、火口周辺規制)]

湯釜火口内北東部や北壁及び水釜火口の北から北東側にあたる斜面で熱活動の活発な状態が継続しています。東京工業大学によると、北側噴気地帯のガス成分及び湯釜湖水の化学成分に火山活動の活発化を示す変化が継続しています。

遠望カメラによる観測では湯釜北側噴気地帯の噴気孔から弱い噴気が認められています。

全磁力連続観測及び繰り返し観測で、2014年5月頃からみられていた湯釜近傍地下の温度上昇を示すと考えられる変化は、2014年7月以降停滞しています。

2014年3月上旬から湯釜付近及びその南側を震源とする火山性地震が増加しましたが、2014年8月下旬以降概ね少ない状態で経過しています。

地殻変動観測によると、2014年4月頃から湯釜付近の膨張を示す変動が認められていましたが、2015年4月頃より停滞しています。また、湯釜周辺に設置している東京工業大学の傾斜計によると、2014年3月からみられている湯釜付近浅部での膨張を示す変動は鈍化しながらも継続しています。

湯釜火口から概ね1kmの範囲では、小規模な噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。噴火時には、風下側で火山灰や小さな噴石が風に流されて降るおそれがあるため注意してください。また、ところどころで火山ガスの噴出が見られ、周辺のくぼ地や谷地形などでは滞留した火山ガスが高濃度になることがありますので、注意してください。

浅間山[火口周辺警報(噴火警戒レベル2、火口周辺規制)]

浅間山では、6月19日の噴火以降、噴火は観測されていません。

山頂火口からは、白色の噴煙が最高で火口縁上700mまで上がりました。噴煙量は2015年6月以降、増加しています。山頂火口で、夜間に高感度カメラで確認できる程度の微弱な火映を引き続き観測しています。

6日及び24日に実施した現地調査では、火山ガス(二酸化硫黄)の放出量は1日あたり1,200~1,700トン(前回10月26日600トン)と引き続き多い状態で経過しています。

山頂直下のごく浅い所を震源とする体を感じない火山性地震は多い状態が続いています。発生した地震の多くはBL型地震(低周波地震)でした。7月に増加した周期の短い火山性地震(BH型地震)は、8月以降減少しています。震源の浅部への移動等の変化はみられていません。火山性微動は、9月以降少ない状態で経過しています。

光波測距観測では、6月頃からの山頂と追分の間でみられていた縮みの傾向が、10月頃から停滞しています。傾斜計では、6月上旬頃からの緩やかな変化が継続しています。GNSS¹⁾の観測では、5月頃からの浅間山を挟む基線でみられていたわずかな伸びは、10月頃から停滞しています。

今後も火口周辺に影響を及ぼす小規模な噴火が発生する可能性がありますので、山頂火口から概ね2kmの範囲では、弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒が必要です。登山者等は地元自治体等の指示に従って危険な地域には立ち入らないでください。また、風下側では降灰及び風の影響を受ける小さな噴石に注意してください。

御嶽山[火口周辺警報(噴火警戒レベル2、火口周辺規制)]

遠望カメラによる観測では、白色の噴煙が火口縁上400m以下の高さで経過しています。

今期間、火山性地震は少ない状態で経過していますが、2014年8月以前の状況には戻っていません。低周波地震及び火山性微動は観測されていません。

御嶽山の火山活動は低下した状態が続き、昨年(2014年)10月以降噴火が発生していないことから、昨年9月27日と同程度の噴火の可能性は低下していると考えられます。

一方、噴煙活動や地震活動が続いていることから、昨年9月27日より規模の小さな噴火が今後も突発的に発生する可能性は否定できません。

火口から概ね1kmの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。風下側では降灰及び風の影響を受ける小さな噴石に注意してください。

箱根山[噴火予報(噴火警戒レベル1、活火山であることに留意)] 20日に噴火警戒レベル2(火口周辺規制)から引下げ

箱根山では、大涌谷で7月1日にごく小規模な噴火が発生した以降、噴火は観測されていません。

火山性地震は7月以降低下傾向が続いており、ほぼ4月の活動活発化以前の状態となっています。国土地理院のGNSS¹⁾連続観測でみられていた山体の膨張を示す地殻変動も、8月下旬頃から停滞し、そ

の後特段の変化はみられていません。また、気象庁と神奈川県温泉地学研究所が設置している傾斜計や体積ひずみ計では、8月以降火山活動に関連する変動はみられていません。

以上のことから、大涌谷周辺の想定火口域において噴火の可能性は低くなったと判断し、20日14時00分に噴火予報を発表し、噴火警戒レベルを2（火口周辺規制）から1（活火山であることに留意）に引き下げました。

一方、大涌谷周辺の想定火口域では、緩やかな低下傾向はみられるものの、噴気活動が活発なところがあります。6日に実施した現地調査では、これまでの現地調査と同様に15-1火口及び15-2～4の各噴気孔、またその周辺の大涌谷温泉供給施設から引き続き噴煙や噴気が勢いよく噴出しているのを確認しましたが、20日に実施した現地調査では、噴煙や噴気の勢いが若干弱くなっていました。

大涌谷周辺の想定火口域では、噴気や火山ガスに引き続き注意してください。

西之島[火口周辺警報(入山危険)及び火山現象に関する海上警報]

海上保安庁等の観測によると、噴火による噴石等の堆積や溶岩の流出が継続しています。

12日に第三管区海上保安本部が実施した上空からの観測によると、第7火口から断続的に灰色の噴煙を噴出していました。また、火砕丘の南西側中腹に新たな溶岩流出口が形成され、そこから南西方向へ溶岩が長さ約200m流出していました。西之島の北海岸に沿って長さ約1,800m、幅約200～300m、南西海岸に沿って長さ約1,700m、幅約100～250mの海域に、ごく薄い黄緑色の変色水が分布していました。

17日に海上保安庁及び東京大学地震研究所が実施した上空からの観測では、火砕丘の南西側中腹からの溶岩流は12日と比較して若干厚みを増し、拡大していました。また2014年9月17日以来、約1年間流出が継続していた火砕丘北側からの溶岩流は停止していました。第7火口では、1時間に1～2回噴火しており、噴煙は灰褐色で高さ約300～500mに達していました。噴火に伴い数メートル程度の火山弾が放出され、到達距離は約500～1000mで、南西側では海上に達していました。西之島周囲の海岸線には、薄い黄緑色の変色水が幅約200～300m分布していました。

観測時、西之島及び新たな陸地には、津波を発生させる恐れのある、海岸線に平行して走る断層やクラックは認められませんでした。

新たな陸地の大きさは、東西約1,900m、南北約1,950m、面積は2.63km²でした（前回9月16日2.67km²）。

25日に第三管区海上保安本部が実施した上空からの観測では、第7火口から弱い白色噴気を確認しました。火砕丘南西側中腹の溶岩流出口及びここから流出している溶岩流には17日と比較して大きな変化はありませんでした。西之島の北東海岸から南側を経て西側海岸に沿って長さ約4,000m、幅約200～300mの海域に、ごく薄い黄緑色の変色水が分布していました。

西之島では、今後も新たに形成された陸地にある火口で噴火活動が継続すると考えられます。また、西之島周辺の海底で噴火が発生する可能性も引き続き考えられ、噴火による影響が海上まで及んだ場合、弾道を描いて飛散する大きな噴石や水面を高速で広がるベースサージ等の影響が概ね2kmの範囲に及ぶおそれがありますので、西之島の中心から概ね4km以内の範囲では噴火に警戒してください。

硫黄島[火口周辺警報(火口周辺危険)及び火山現象に関する海上警報]

火山性地震はやや少ない状態で経過しています。火山性微動は観測されませんでした。

GNSS¹⁾連続観測によると、地殻変動は2014年2月下旬頃から隆起・停滞を繰り返し、2015年3月頃から隆起速度が上がっています。また、国土地理院のGNSS¹⁾観測によると2015年4月中旬頃から西向きの変動速度が上がっていましたが、9月以降は停滞しています。

硫黄島の島内は全体に地温が高く、多くの噴気地帯や噴気孔があり、過去には各所で小規模な噴火が発生しています。このことから火山活動はやや活発な状態で推移しており、火口周辺に影響を及ぼす噴火が発生すると予想されますので、従来から小規模な噴火が発生している地点（ミリオンダラーホール（旧噴火口）等）及びその周辺では噴火に警戒してください。

阿蘇山[火口周辺警報(噴火警戒レベル2、火口周辺規制)] 24日に噴火警戒レベル3（入山規制）から引下げ

中岳第一火口では、10月23日に噴火が発生して以降、噴火は発生していません。10月24日以降は、白色の噴煙が概ね火口縁上200～300mで経過しました。

火山活動の活発時にみられていた火山性微動の振幅の増大は10月23日の噴火以降、概ね小さな状態

となりました。孤立型微動は10月下旬以降減少し、火山性地震も10月以降減少しています。

また、火山ガス（二酸化硫黄）の放出量は、1日あたり800~1,100トン（10月：300~1,900トン）で、10月下旬以降は減少しています。これらのことから、火口から1kmを超える範囲に影響を及ぼす噴火が発生する可能性は低くなったと判断し、24日14時00分に火口周辺警報を発表し、噴火警戒レベルを3（入山規制）から2（火口周辺規制）に引き下げました。

中岳第一火口では、2014年11月以降、活発な火山活動が続いてきたことから、当分の間は火口周辺に影響を及ぼす噴火が発生する可能性があります。

火口から概ね1kmの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石及び火砕流に警戒してください。風下側では降灰及び風の影響を受ける小さな噴石に注意してください。

霧島山（新燃岳）[火口周辺警報(噴火警戒レベル2、火口周辺規制)]

新燃岳付近を震源とする火山性地震が時々発生しました。火山性地震の月回数は24回と前月（10月：50回）に比べやや減少しました。火山性微動は観測されませんでした。

GNSS¹⁾観測によると、新燃岳の北西数kmの地下深くにあると考えられるマグマだまりの膨張を示す地殻変動は、2015年1月頃から停滞しています。一方、新燃岳周辺の一部の基線では、わずかに伸びの傾向が認められていましたが、10月頃から停滞しています。

新燃岳では火口周辺に影響のある小規模な噴火が発生する可能性がありますので、新燃岳火口から

概ね1kmの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。風下側では降灰及び風の影響を受ける小さな噴石に注意してください。降雨時には、泥流や土石流に注意してください。

霧島山（御鉢）[噴火予報(噴火警戒レベル1、活火山であることに留意)]

火山性地震の月回数は16回で、前月（10月：18回）と同程度でした。19日に継続時間が1分未満の振幅の小さな火山性微動が発生しました（10月：なし）。御鉢で火山性微動を観測したのは本年（2015年）2月18日以来です。

火山活動に特段の変化はなく、噴火の兆候は認められませんが、7月頃から火山性地震の活動がやや活発となっていますので、今後の火山活動の推移に注意してください。

霧島山（えびの高原（硫黄山）周辺）[噴火予報(活火山であることに留意)]

火山性地震は4日に一時的に14回と増加し、月回数は42回（10月：68回）でした。震源は、主に硫黄山付近のごく浅いところから海拔下2kmと韓国岳北東側の深さ0~2kmに分布しました。火山性微動は観測されませんでした（10月：2回）。

11月1日、5日、27日に実施した現地調査では、硫黄山及びその周辺では噴気は認められませんでした。赤外映像装置による観測では、地表面温度分布に特段の変化は認められませんでした。

なお、硫黄山の一部で引き続き硫化水素臭が認められました。

えびの高原（硫黄山）周辺では、7月頃から振幅の小さな火山性微動が時々発生するなど、火山活動がやや高まってきていますので、今後の火山活動の推移に注意してください。

桜島[火口周辺警報(噴火警戒レベル2、火口周辺規制)] 25日噴火警戒レベル3（入山規制）から引下げ

桜島の昭和火口では、9月17日以降爆発的噴火は発生しておらず、9月29日以降は、南岳山頂火口を含めて小規模な噴火も観測していません。火山性地震及び火山性微動は少ない状態で経過しています。

桜島島内での傾斜計、伸縮計による観測では、8月の急激な変動以降、山体膨張を示す地殻変動はみられていません。GNSS¹⁾による観測では、2015年1月頃から島内でみられていた山体膨張の傾向は、8月の急激な山体膨張の変動以降、収縮傾向に転じています。

4日と19日に実施した現地調査及び16日に産業技術総合研究所が実施した現地調査では、火山ガス（二酸化硫黄）の放出量は1日あたり70~100トン（10月：70トン）と、少ない状態で経過しています。

これらのことから、昭和火口及び南岳山頂火口から概ね1kmを超える範囲に影響を及ぼす噴火が発生する可能性が低くなったと考えられるため、25日11時00分に火口周辺警報を発表し、噴火警戒レベルを3（入山規制）から2（火口周辺規制）に引き下げました。

火山活動は低下していますが、これまでも噴火を繰り返しており、今後も火口周辺に影響を及ぼす噴火が発生すると考えられます。昭和火口及び南岳山頂火口から概ね1kmの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。

風下側では火山灰だけでなく小さな噴石（火山れき）が遠方まで風に流されて降るため注意してください。爆発的噴火に伴う大きな空振によって窓ガラスが割れるなどのおそれがあるため注意してください。また、降雨時には土石流に注意してください。

口永良部島[噴火警報(噴火警戒レベル5、避難)及び火山現象に関する海上警報]

新岳では、6月19日の噴火以降、噴火は観測されていません。

遠望カメラによる観測では、白色の噴煙が火口縁上600m以下で経過しました。

期間内に実施した現地調査では、火口周辺の地形や噴気等の状況に変化は見られませんでした。また、赤外線熱映像装置による観測では、2015年3月頃から5月29日の噴火前に温度上昇が認められていた新岳火口西側割れ目付近の領域の温度は、引き続き低下した状態でした。

九州地方整備局の協力により、3日に気象庁機動調査班（JMA-MOT）が実施した上空からの観測によると、白色の噴煙が西側の割れ目付近と北側の火口縁付近及び南側の火口壁から上がっているのを確認しました。新岳火口及び火口周辺の形状に特段の変化は認められませんでした。赤外線熱映像装置による観測では、新岳火口内、新岳火口西側割れ目付近及び北側と南側の火口縁で引き続き熱異常域を確認しました。

10日、28日及び30日に東京大学大学院理学系研究科、京都大学防災研究所、屋久島町及び気象庁が実施した観測では、火山ガス（二酸化硫黄）の放出量は1日あたり200～300トン（前回10月14日300トン）とやや少ない状況でした。

火山性地震は少ない状態で経過しました。火山性微動は観測されていません。地殻変動観測では、5月29日の噴火以降に特段の変化は認められません。

5月29日と同程度の噴火が発生する可能性は低くなっているものの、引き続き噴火の可能性があるため、火砕流に警戒が必要です。火砕流の流下による影響が及ぶと予想される屋久島町口永良部島の居住地域（前田地区、向江浜地区）では厳重な警戒（避難等の対応）をしてください。

噴火に伴う大きな噴石の飛散が予想される新岳火口から概ね2kmの範囲及び火砕流の流下による影響が及ぶと予想される新岳火口の西側の概ね2.5kmの範囲では、厳重な警戒（避難等の対応）をしてください。風下側では、火山灰だけでなく小さな噴石が風に流されて降るため注意してください。降雨時には土石流の可能性があるので注意してください。

新岳火口から半径1.4海里以内の周辺海域では、噴火による影響が及ぶおそれがありますので、噴火に警戒してください。

諏訪之瀬島[火口周辺警報(噴火警戒レベル2、火口周辺規制)]

御岳火口では、1日と20日に噴火が発生し、噴煙が最高で火口縁上1,000mまで上がりました。爆発的噴火は発生しませんでした。十島村役場諏訪之瀬島出張所によると、1日と21日に集落（御岳の南南西約4km）で降灰が確認されました。また、1日には集落で鳴動も確認されました。

同火口では、夜間に高感度カメラで火映を時々観測しました。

今後も火口周辺に影響を及ぼす程度の噴火が発生すると予想されますので、火口から概ね1kmの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。風下側では火山灰だけでなく小さな噴石が遠方まで風に流されて降るおそれがあるため注意してください。

（火山の順は活火山総覧（第4版）による）

1) GNSS (Global Navigation Satellite Systems) とは、GPSをはじめとする衛星測位システム全般を示す呼称です。

資料1 全国の火山現象に関する特別警報・警報・予報の発表状況のまとめ（平成27年12月8日現在）

（1）主な活火山

	火山名	特別警報、警報及び予報の発表状況	特別警報、警報及び予報の発表履歴
北海道地方	アトサヌプリ	噴火予報(活火山であることに留意)	2007年12月1日噴火予報(平常)
	雌阿寒岳	噴火予報(レベル1、活火山であることに留意)	2007年12月1日噴火予報(平常) 2008年9月29日火口周辺警報(火口周辺危険) 2008年10月17日噴火予報(平常) 2008年11月17日火口周辺警報(火口周辺危険) 2008年12月16日火口周辺警報(レベル2、火口周辺規制) 2009年4月10日噴火予報(レベル1、平常) 2015年7月28日火口周辺警報(レベル2、火口周辺規制) 2015年11月13日噴火予報(レベル1、活火山であることに留意)
	大雪山	噴火予報(活火山であることに留意)	2007年12月1日噴火予報(平常)
	十勝岳	噴火予報(レベル1、活火山であることに留意)	2007年12月1日噴火予報(平常) 2008年12月16日噴火予報(レベル1、平常) 2014年12月16日火口周辺警報(レベル2、火口周辺規制) 2015年2月24日噴火予報(レベル1、平常)
	樽前山	噴火予報(レベル1、活火山であることに留意)	2007年12月1日噴火予報(レベル1、平常)
	倶多楽	噴火予報(レベル1、活火山であることに留意)	2007年12月1日噴火予報(平常) 2015年10月1日噴火予報(レベル1、活火山であることに留意)
	有珠山	噴火予報(レベル1、活火山であることに留意)	2007年12月1日噴火予報(平常) 2008年6月9日噴火予報(レベル1、平常)
	北海道駒ヶ岳	噴火予報(レベル1、活火山であることに留意)	2007年12月1日噴火予報(レベル1、平常)
	恵山	噴火予報(活火山であることに留意)	2007年12月1日噴火予報(平常)
東北地方	岩木山	噴火予報(活火山であることに留意)	2007年12月1日噴火予報(平常)
	秋田焼山	噴火予報(レベル1、活火山であることに留意)	2007年12月1日噴火予報(平常) 2013年7月25日噴火予報(レベル1、平常)
	岩手山	噴火予報(レベル1、活火山であることに留意)	2007年12月1日噴火予報(レベル1、平常)
	秋田駒ヶ岳	噴火予報(レベル1、活火山であることに留意)	2007年12月1日噴火予報(平常) 2009年10月27日噴火予報(レベル1、平常)
	鳥海山	噴火予報(活火山であることに留意)	2007年12月1日噴火予報(平常)
	栗駒山	噴火予報(活火山であることに留意)	2007年12月1日噴火予報(平常)
	蔵王山	噴火予報(活火山であることに留意)	2007年12月1日噴火予報(平常) 2015年4月13日火口周辺警報(火口周辺危険) 2015年6月16日噴火予報(活火山であることに留意)
	吾妻山	火口周辺警報(レベル2、火口周辺規制)	2007年12月1日噴火予報(レベル1、平常) 2014年12月12日火口周辺警報(レベル2、火口周辺規制)
	安達太良山	噴火予報(レベル1、活火山であることに留意)	2007年12月1日噴火予報(平常) 2009年3月31日噴火予報(レベル1、平常)
	磐梯山	噴火予報(レベル1、活火山であることに留意)	2007年12月1日噴火予報(平常) 2009年3月31日噴火予報(レベル1、平常)

	火山名	特別警報、警報及び予報の発表状況	特別警報、警報及び予報の発表履歴	
関東・中部地方 関東・中部地方	那須岳	噴火予報(レベル1、活火山であることに留意)	2007年12月1日噴火予報(平常) 2009年3月31日噴火予報(レベル1、平常)	
	日光白根山	噴火予報(活火山であることに留意)	2007年12月1日噴火予報(平常)	
	草津白根山	火口周辺警報(レベル2、火口周辺規制)	2007年12月1日噴火予報(レベル1、平常) 2009年4月10日噴火予報(レベル1、平常)切替 2014年6月3日火口周辺警報(レベル2、火口周辺規制)	
	浅間山	火口周辺警報(レベル2、火口周辺規制)	2007年12月1日噴火予報(レベル1、平常) 2008年8月8日火口周辺警報(レベル2、火口周辺規制) 2009年2月1日火口周辺警報(レベル3、入山規制) 2009年2月3日火口周辺警報(レベル3、入山規制)切替 2009年4月7日火口周辺警報(レベル2、火口周辺規制) 2010年4月15日噴火予報(レベル1、平常) 2015年6月11日火口周辺警報(レベル2、火口周辺規制)	
	新潟焼山	噴火予報(レベル1、活火山であることに留意)	2007年12月1日噴火予報(平常) 2011年3月31日噴火予報(レベル1、平常)	
	焼岳	噴火予報(レベル1、活火山であることに留意)	2007年12月1日噴火予報(平常) 2011年3月31日噴火予報(レベル1、平常)	
	乗鞍岳	噴火予報(活火山であることに留意)	2007年12月1日噴火予報(平常)	
	御嶽山	火口周辺警報(レベル2、火口周辺規制)	2007年12月1日噴火予報(平常) 2008年3月31日噴火予報(レベル1、平常) 2014年9月27日火口周辺警報(レベル3、入山規制) 2014年9月28日火口周辺警報(レベル3、入山規制)切替 2015年1月19日火口周辺警報(レベル3、入山規制)切替 2015年3月31日火口周辺警報(レベル3、入山規制)切替 2015年6月26日火口周辺警報(レベル2、火口周辺規制)	
	白山	噴火予報(レベル1、活火山であることに留意)	2007年12月1日噴火予報(平常) 2015年9月2日噴火予報(レベル1、活火山であることに留意)	
	富士山	噴火予報(レベル1、活火山であることに留意)	2007年12月1日噴火予報(レベル1、平常)	
	箱根山	噴火予報(レベル1、活火山であることに留意)	2007年12月1日噴火予報(平常) 2009年3月31日噴火予報(レベル1、平常) 2015年5月6日火口周辺警報(レベル2、火口周辺規制) 2015年6月30日火口周辺警報(レベル3、入山規制) 2015年9月11日火口周辺警報(レベル2、火口周辺規制) 2015年11月20日噴火予報(レベル1、活火山であることに留意)	
	伊豆東部火山群	噴火予報(レベル1、活火山であることに留意)	2007年12月1日噴火予報(平常) 2011年3月31日噴火予報(レベル1、平常)	
	伊豆・小笠原諸島	伊豆大島	噴火予報(レベル1、活火山であることに留意)	2007年12月1日噴火予報(レベル1、平常)
		新島	噴火予報(活火山であることに留意)	2007年12月1日噴火予報(平常)
神津島		噴火予報(活火山であることに留意)	2007年12月1日噴火予報(平常)	
三宅島		噴火予報(レベル1、活火山であることに留意)	2007年12月1日火口周辺警報(火口周辺危険) 2008年3月31日火口周辺警報(レベル2、火口周辺規制) 2015年6月5日噴火予報(レベル1、活火山であることに留意)	
八丈島		噴火予報(活火山であることに留意)	2007年12月1日噴火予報(平常)	
青ヶ島		噴火予報(活火山であることに留意)	2007年12月1日噴火予報(平常)	
西之島		火口周辺警報(入山危険)	2007年12月1日噴火予報(平常) 2013年11月20日火口周辺警報(火口周辺危険) 2014年6月3日火口周辺警報(入山危険) 2014年6月11日火口周辺警報(入山危険)切替 2015年2月24日火口周辺警報(入山危険)切替	
硫黄島		火口周辺警報(火口周辺危険)	2007年12月1日火口周辺警報(火口周辺危険)	
福徳岡ノ場		噴火警報(周辺海域警戒)	2007年12月1日噴火警報(周辺海域警戒)	
	火山名	特別警報、警報及び予報の発表状況	特別警報、警報及び予報の発表履歴	

		予報の発表状況	
九州地方・南西諸島九州地方・南西諸島	鶴見岳・伽藍岳	噴火予報(活火山であることに留意)	2007年12月1日噴火予報(平常)
	九重山	噴火予報(レベル1、活火山であることに留意)	2007年12月1日噴火予報(レベル1、平常)
	阿蘇山	火口周辺警報(レベル2、火口周辺規制)	2007年12月1日噴火予報(レベル1、平常) 2011年5月16日火口周辺警報(レベル2、火口周辺規制) 2011年6月20日噴火予報(レベル1、平常) 2013年9月25日火口周辺警報(レベル2、火口周辺規制) 2013年10月11日噴火予報(レベル1、平常) 2013年12月27日火口周辺警報(レベル2、火口周辺規制) 2014年3月12日噴火予報(レベル1、平常) 2014年8月30日火口周辺警報(レベル2、火口周辺規制) 2015年9月14日火口周辺警報(レベル3、入山規制) 2015年11月24日火口周辺警報(レベル2、火口周辺規制)
	雲仙岳	噴火予報(レベル1、活火山であることに留意)	2007年12月1日噴火予報(レベル1、平常)
	霧島山(新燃岳)	火口周辺警報(レベル2、火口周辺規制)	2007年12月1日噴火予報(レベル1、平常) 2008年8月22日火口周辺警報(レベル2、火口周辺規制) 2008年10月29日噴火予報(レベル1、平常) 2010年3月30日火口周辺警報(レベル2、火口周辺規制) 2010年4月16日噴火予報(レベル1、平常) 2010年5月6日火口周辺警報(レベル2、火口周辺規制) 2011年1月26日火口周辺警報(レベル3、入山規制) 2011年1月31日火口周辺警報(レベル3、入山規制)切替 2011年2月1日火口周辺警報(レベル3、入山規制)切替 2011年3月22日火口周辺警報(レベル3、入山規制)切替 2012年6月26日火口周辺警報(レベル3、入山規制)切替 2013年10月22日火口周辺警報(レベル2、火口周辺規制)
	霧島山(御鉢)	噴火予報(レベル1、活火山であることに留意)	2007年12月1日噴火予報(レベル1、平常)
	霧島山(えびの高原(硫黄山)周辺)	噴火予報(活火山であることに留意)	2007年12月1日噴火予報(平常) 2014年10月24日火口周辺警報(火口周辺危険) 2015年5月1日噴火予報(平常)
	桜島	火口周辺警報(レベル2、火口周辺規制)	2007年12月1日火口周辺警報(レベル2、火口周辺規制) 2008年2月3日火口周辺警報(レベル3、入山規制) 2008年2月20日火口周辺警報(レベル2、火口周辺規制) 2008年4月8日火口周辺警報(レベル3、入山規制) 2008年7月14日火口周辺警報(レベル2、火口周辺規制) 2008年7月28日火口周辺警報(レベル3、入山規制) 2008年8月28日火口周辺警報(レベル2、火口周辺規制) 2009年2月2日火口周辺警報(レベル3、入山規制) 2009年2月19日火口周辺警報(レベル2、火口周辺規制) 2009年3月2日火口周辺警報(レベル3、入山規制) 2009年3月10日火口周辺警報(レベル3、入山規制)切替 2009年4月24日火口周辺警報(レベル2、火口周辺規制) 2009年7月19日火口周辺警報(レベル3、入山規制) 2010年9月30日火口周辺警報(レベル2、火口周辺規制) 2010年10月13日火口周辺警報(レベル3、入山規制) 2012年3月12日火口周辺警報(レベル3、入山規制)切替 2012年3月21日火口周辺警報(レベル3、入山規制)切替 2015年8月15日噴火警報(レベル4、避難準備) 2015年9月1日火口周辺警報(レベル3、入山規制) 2015年11月25日火口周辺警報(レベル2、火口周辺規制)
	薩摩硫黄島	噴火予報(レベル1、活火山であることに留意)	2007年12月1日火口周辺警報(レベル2、火口周辺規制) 2012年11月29日噴火予報(レベル1、平常) 2013年6月4日火口周辺警報(レベル2、火口周辺規制) 2013年7月10日噴火予報(レベル1、平常)

	火山名	特別警報、警報及び予報の発表状況	特別警報、警報及び予報の発表履歴
九州地方・南西諸島	口永良部島	噴火警報 (レベル5、避難)	2007年12月1日火口周辺警報(レベル2、火口周辺規制) 2008年1月25日噴火予報(レベル1、平常) 2008年9月4日火口周辺警報(レベル2、火口周辺規制) 2008年10月27日火口周辺警報(レベル3、入山規制) 2009年3月18日火口周辺警報(レベル2、火口周辺規制) 2009年8月4日噴火予報(レベル1、平常) 2009年9月27日火口周辺警報(レベル2、火口周辺規制) 2009年10月30日噴火予報(レベル1、平常) 2011年12月15日火口周辺警報(レベル2、火口周辺規制) 2012年1月20日噴火予報(レベル1、平常) 2014年8月3日火口周辺警報(レベル3、入山規制) 2014年8月7日火口周辺警報(レベル3、入山規制)切替 2015年5月29日噴火警報(レベル5、避難) 2015年10月21日噴火警報(レベル5、避難)切替
	諏訪之瀬島	火口周辺警報 (レベル2、火口周辺規制)	2007年12月1日火口周辺警報(レベル2、火口周辺規制)

注) 警報及び予報の発表履歴欄には、2007年12月1日の火山現象に関する警報・予報及び噴火警戒レベルの運用開始からの経過を示しています。この表では、主な活火山として、警報を発表している、または常時観測を行っている火山を示しています。また、ここで示すレベルは噴火警戒レベルを示しています。

(2) その他の活火山

以下の活火山(*印を除く)では2007年12月1日に噴火予報(平常)を発表しました。また、*印の活火山では、活火山として選定された2011年6月7日に噴火予報(平常)を発表しました。その後、いずれも火山活動に特段の変化はなく、予報事項に変更はありません。

	火山名
北海道地方	知床硫黄山、羅臼岳、天頂山*、摩周、雄阿寒岳*、丸山、利尻山、恵庭岳、羊蹄山、ニセコ、渡島大島、茂世路岳、散布山、指臼岳、小田萌山、択捉焼山、択捉阿登佐岳、ベルタルベ山、ルルイ岳、爺爺岳、羅臼山、泊山
東北地方	恐山、八甲田山、十和田、八幡平、鳴子、肘折、沼沢、燧ヶ岳
関東・中部地方	高原山、赤城山、榛名山、横岳、妙高山、弥陀ヶ原、アカンダナ山
伊豆・小笠原諸島	利島、御蔵島、ペヨネース列岩、須美寿島、伊豆鳥島、孀婦岩、海形海山、海徳海山、噴火浅根、北福德堆、南日吉海山、日光海山
中国・九州地方及び南西諸島	三瓶山、阿武火山群、由布岳、福江火山群、米丸・住吉池、若尊、池田・山川、開聞岳、口之島、中之島、硫黄鳥島、西表島北北東海底火山

注) 2015年5月18日から(平常)は(活火山であることに留意)に変更しました。